

Ⅱ 社会の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ◎ 「内容」ごとに1～8までの大問を示した。「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」「資料活用の技能」「社会的事象についての知識・理解」の4観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の概要と分析」について

- ◎ 調査結果の概要と分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示した。

(◇：良好な結果が見られた点 ◆：課題が見られた点 ○：指導のポイント)

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

- ◎ 大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（分析・指導のポイント）について右ページ以降に記した。

※ 分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。

(※誤答例は、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いもの)

1 設問のねらいと評価

評価の観点: 1社会的事象への関心・意欲・態度 2社会的な思考・判断・表現 3資料活用の技能 4社会的事象についての知識・理解

領域	内容	大問	小問	設問のねらい	評価の観点			
					1	2	3	4
地理的分野	世界の地域構成	1	(1)	正距方位図法において、中心からの方位の見方を理解している。			○	○
			(2)	正距方位図法において、中心からの距離の見方を理解している。			○	○
			(3)	面積を正しく表す地図についての知識を身に付けている。				○
			(4)	地図上で本初子午線の位置を理解している。				○
			(5)	緯線と経線が直角に交わる地図の特徴を理解している。			○	○
		2	(1)	地図帳のしくみを理解し、索引の使用法についての知識を身に付けている。			○	○
			(2)	緯度と経度の表し方について理解している。			○	○
			(3)	大陸州 世界の大陸と州について理解している。				○
	(4)	大西洋の位置と名称を、世界の州の位置関係から考察し、判断することができる。		○		○		
	世界の国々の調査	(1)	①	人口ピラミッドから、低年齢層の人口構成の特色を読み取ることができる。			○	
			②	人口ピラミッドから、高年齢層の人口構成の特色を読み取ることができる。			○	
		(2)	①	サウジアラビアの伝統的な服装についての知識を身に付けている。				○
			②	サウジアラビアの伝統的な服装の特色について、自然及び社会的条件と関連付けて考察し、判断することができる。		○		○
			③	サウジアラビアが産出する鉱物資源について理解している。				○
(3)		①	米の主要生産国がアジアに集中していることを理解している。			○	○	
		②	世界の様々な地域の主食について理解している。				○	
(4)			世界の主な国名と位置について理解している。				○	
歴史的分野	歴史の流れ	4	(1)	縄文時代の土偶とその時代の特色を理解している。			○	○
			(2)	中世という時代区分がいつ頃かを理解している。				○
			(3)	西暦と世紀の関係を理解している。				○
			(4)	藤原道長、源頼朝、足利義満が活躍した時代を理解している。		○		○
	古代までの日本	5	(1)	猿人や原人がつくることを覚えた道具について理解している。				○
			(2)	中国文明に関係の深い河川についての知識を身に付けている。				○
			(3)	卑弥呼が邪馬台国を支配していた時代の我が国の様子を理解している。		○		○
			(4)	聖武天皇が大仏を建立した理由を時代背景とともに説明している。	○	○		○
			(5)	源氏物語や古今和歌集、枕草子に使用された文字について理解している。				○
	中世の日本	6	(1)	鎌倉時代の文化や社会の様子について理解している。		○		○
			(2)	鎌倉の地理的位置を理解している。				○
			(3)	「永仁の徳政令」を読み取り、内容を解釈し、いつの時代かを判断することができる。		○	○	○
			(4)	中世の文化について、その特色と内容を理解している。			○	○
	歴史のテーマ	7	(1)	文化財等から時代を特定し、それを古い順に並べることができる。			○	○
			(2)	勘合符の使用された理由について、説明することができる。	○	○		○
			(3)	15世紀に尚氏によって統一された琉球王国について理解している。				○
			(4)	奈良時代から平安時代にかけての外国とのかかわりについて理解している。				○
(5)			鎌倉時代の出来事を整理して理解している。		○		○	

2 調査結果の概要と分析

<p style="text-align: center;">全 体</p>	<p>◇全体の正答率は 60.7%であり、設定通過率を 6.7 ポイント下回った。領域別の正答率は、「地理的分野」が 65.7%、「歴史的分野」が 54.2 ポイントであった。</p> <p>◇内容ごとの正答率は、「世界の地域構成」が 67.5%、「世界の国々の調査」が 63.5%、「歴史の流れ」が 55.6%、「古代までの日本」が 68.7%、「中世の日本」が 48.0%、「歴史のテーマ」が 43.7%だった。</p> <p>◆観点別に集計した正答率では、「社会的な思考・判断・表現」が低かった。また、文章で答える問題は、正答率が低く、無解答率が高い結果となった。</p>
<p style="text-align: center;">領 域 別</p>	<p>地 理 的 分 野</p> <p>◇「世界の地域構成」の正距方位図法に関する問題は、中心からの方位の見方を問う問題の正答率が 65.8%だったのに対し、中心からの距離の見方を問う問題は 88.6%であり、22.8 ポイント上回った。平成 23 年度と同一問題である地図帳のしくみを理解しているかを問う問題は、71.9%であり、昨年度を 7.0 ポイント上回り、改善傾向が見られる。</p> <p>◆面積を正しく表す地図に関する問題は、40.7%であり、指導の改善が必要である。</p> <p>◇「世界の国々の調査」の人口ピラミッドの特色を読み取る問題は、ともに設定通過率を上回り、おおむね満足できる状況である。また、世界の主な国名と位置に関する問題も、設定通過率を上回った。</p> <p>◆サウジアラビアの伝統的な特色について、自然及び社会的条件と関連付けて考察し、判断する問題の正答率は 45.8%であり、イラストと選択肢の中の情報を関連付けることに課題が見られる。</p> <p>◆米の主要生産国がアジアに集中していることを理解しているかを問う問題は、34.2%であり、知識と統計資料を読み取った結果を結び付かせる力が不十分である。</p> <p>○生徒の地球儀や地図への接し方を工夫し、地理的分野を学習する上で必要な基礎的な知識を身に付けさせる必要がある。</p> <p>○年間を通して統計資料に慣れ親しませ、資料を読み取る力を高める必要がある。</p> <hr/> <p>歴 史 的 分 野</p> <p>◆「歴史の流れ」では、中世という時代区分がいつ頃かを問う問題の正答率が 30.6%であり、社会の特色で時代を区分する方法に課題が見られる。</p> <p>◆「古代までの日本」では、聖武天皇が大仏を建立した理由を時代背景とともに説明する問題の正答率は 49.3%、無解答率が 21.2%であり、説明する力に課題がある。</p> <p>◆「中世の日本」では、鎌倉時代の文化や社会の様子について問う問題の正答率が 40.0%、中世の文化について問う問題の正答率が 38.4%といずれも設定通過率を大きく下回っている。</p> <p>◆「歴史のテーマ」においても、鎌倉時代の出来事を整理して理解しているかを問う問題の正答率が 42.1%であり、設定通過率を下回っている。</p> <p>○歴史を学習する礎となる時代区分などの基本的知識を十分に定着させる必要がある。</p> <p>○時代の特色をとらえることに大きな課題があり、指導改善の必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">継 続 し て 見 ら れ る 課 題</p>	<p>〈地理的分野〉</p> <p>◆地理的な見方や考え方の基礎が不十分である。また、知識と統計資料を読み取った結果を結び付けて考察する力が不足している。</p> <p>〈歴史的分野〉</p> <p>◆各時代の特色を踏まえ、我が国の歴史の大きな流れを理解することに、課題がある。また、歴史学習の基盤となる年代や世紀の表し方についての理解が不足している。</p> <p>〈地理的分野・歴史的分野共通〉</p> <p>◆習得した基礎的・基本的な知識や概念、技能を活用する力に課題がある。特に、複数の資料を組み合わせ読み取り、読み取った結果と習得した知識とを関連付けて活用する力が不足している。また、文章で答える問題において、無解答率が高い。</p>

3 領域別調査結果の指導のポイント

(1) 「世界の地域構成」

大問	小問	問題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率	
1	(1)	地図Aを見て、東京から東にある都市名を答える。	ブエノスアイレス	ニューヨーク ペキン		65.8	2.1	70	
	(2)	地図Aを見て、次の1～4の都市を、東京からの距離が遠い順になるように並べ替える。 1 シドニー 2 ペキン 3 ブラジリア 4 ケープタウン	3→4→ 1→2	4→3→ 1→2		88.6	0.6	70	
	(3)	地図Bの特徴として正しいものを、次の1～4の中から一つ選ぶ。 1 面積を正しく表す。 2 緯線と経線が直角に交わる。 3 中心からの距離と方位を正しく表す。 4 地球上の距離や面積,方位,角度のすべてを正確に表す。	1	2, 3		40.7	1.4	65	
	(4)	本初子午線にあたるものを、地図Cの1～4の中から一つ選ぶ。	1	3, 4		59.5	1.2	80	
	(5)	資料Dを読み取り、文中の(あ)にあてはまる語句を答える。 地図Cは、南極や北極に近づくほど、陸地の(あ)が実際の(あ)よりも大きく表現されている。	面積	大きさ 距離		78.1	8.0	65	
2	(1)	29D2Sと示されている位置を、地図帳の一部を示した図のア～エの中から一つ選ぶ。	ア	ウ		71.9	4.0	70	
	(2)	地図帳の一部を示した図のイで表した範囲の位置を緯度・経度で表すと、どのように表すことができるかを1～4の中から一つ選ぶ。 1 南緯・西経を使って表すことができる 2 北緯・東経を使って表すことができる 3 南緯・東経を使って表すことができる 4 北緯・西経を使って表すことができる	3	1		56.0	3.1	70	
	(3)	大陸	地図帳の一部を示した図の中にあるX国について、(Y), (Z)にあてはまる語句を、【語群】の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。	ユーラシア	アジア		81.0	2.4	70
		州	大陸名(Y), 州名(Z)	アジア	オセアニア ヨーロッパ		72.7	3.2	70
(4)	次の文が示す海洋の名称を答える。 この海洋は、北アメリカ州, 南アメリカ州, ヨーロッパ州, アフリカ州に接している。	大西洋	太平洋 インド洋		60.9	8.2	60		

(単位：%)

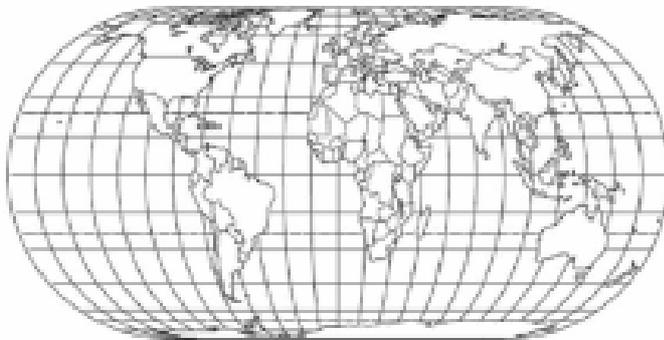
世界の地域構成

問題 1 (3)

地図Bの特徴として正しいものを、次の1～4の中から一つ選んで、その番号を書きなさい。

- 1 面積を正しく表す。
- 2 緯線と経線が直角に交わる。
- 3 中心からの距離と方位を正しく表す。
- 4 地球上の距離や面積、方位、角度のすべてを正確に表す。

地図B



(東京書籍「新編 新しい社会 地理」より作成)

分析 正答率が40.7%であり、選択肢2、3の誤答が多い。このことから様々な地図の特色について混同しており、整理できていないことが考えられる。また、「面積の正しい地図(メルワイド図法)」についての授業での取り扱いが少ない可能性が考えられる。

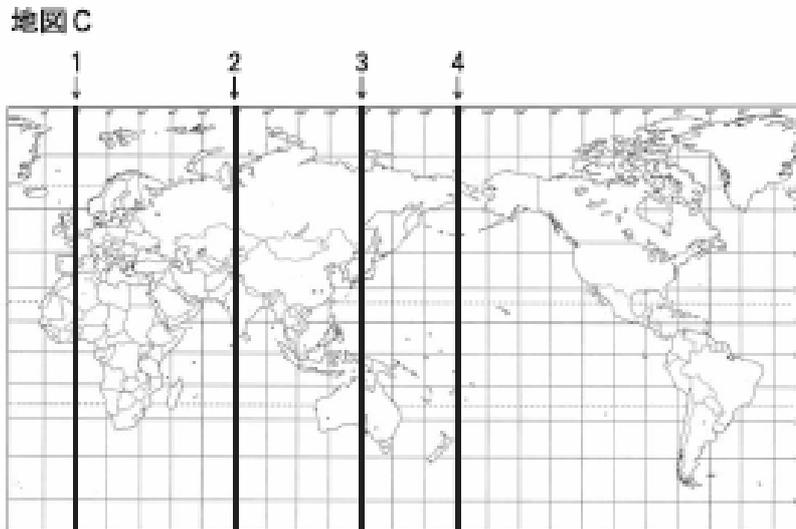
指導のポイント

1 地球儀や様々な地図の特色を整理して理解させる。

目にする機会が多い「地球儀」「緯線と経線が直角に交わった地図(メルカトル図法)」「中心からの距離と方位が正しい地図(正距方位図法)」「面積の正しい地図(メルワイド図法)」についての特色を整理して理解させる必要がある。例えば、生徒が整理しやすいよう地図帳や資料集を活用することや様々な地図の特色を表にしたワークシートを活用するなどの工夫が考えられる。

問題 1 (4)

本初子午線にあたるものを、地図Cの1～4の中から一つ選んで、その番号を答えなさい。



(株式会社新学社「白地図ワークシート・地理後期」より作成)

分析 正答率 59.5%であり、選択肢 3、4 の誤答が多い。このことから本初子午線が地図上で理解できていないことが考えられる。また、学習した時点では理解しているが、時間の経過とともに、徐々に混同していくものと考えられる。

指導のポイント

2 地球上の位置を示すことに必要な知識を視覚的にとらえやすいよう提示の仕方を工夫する。

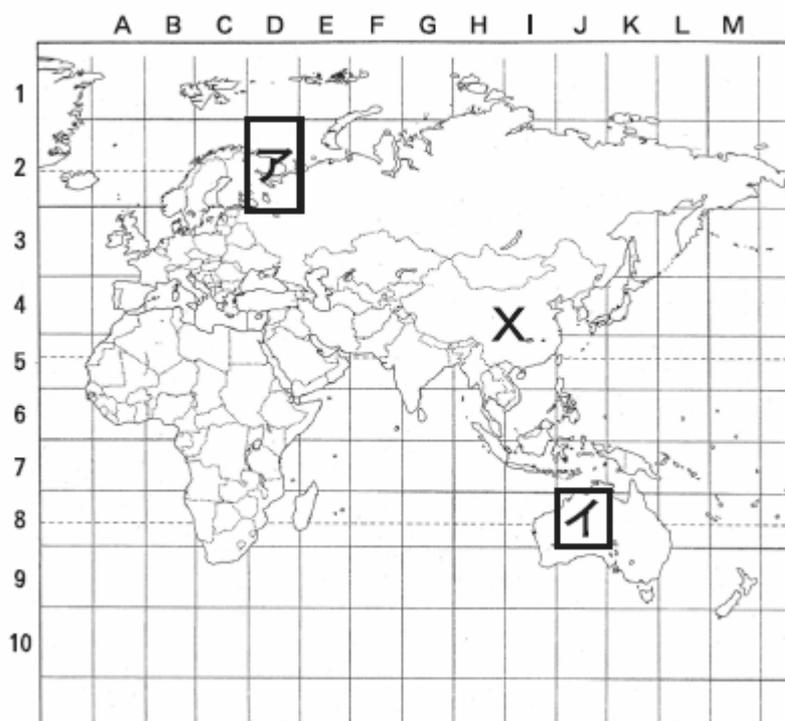
赤道、本初子午線、緯度・経度など、地球上の位置を示すことに必要な知識を地球儀や様々な地図を用い、作業を通して理解させる。その際、地図帳や白地図、資料集、ワークシートなどを活用し着色させるなどの工夫やICT機器を用いるなど、生徒が視覚的にとらえやすいよう資料の提示の仕方を工夫する。

問題 2 (2)

地図帳の一部を示した図のイで表した範囲の位置を緯度・経度で表すと、どのように表すことができますか。次の1～4の中から一つ選んで、その番号を答えなさい。

- 1 南緯・西経を使って表すことができる。
- 2 北緯・東経を使って表すことができる。
- 3 南緯・東経を使って表すことができる。
- 4 北緯・西経を使って表すことができる。

【地図帳の一部を示した図】



分析 正答率 56,0%であり、本初子午線・赤道の位置や緯度・経度の理解が不足していると考えられる。(資料は、2ページに分かれているが、日本を中心とした地図と考えられる。)

指導のポイント

3 生徒の地図への接し方を工夫し関心を高める。

授業の導入時に地図を用い簡単な復習クイズを出す、ICT機器を用いる、日常的に地球儀や地図に親しませよう教室や共用スペースに地球儀や様々な地図を置くなど、生徒の関心を高めるための工夫をする。

(2) 「世界の国々の調査」

大問	小問	問題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
3	(1)	① A国の人口構成の特色について、資料3から読み取れることを表した(①)(②)にあてはまる語句をそれぞれ答える。	高	少, 低		74.2	5.1	70
		②	低	多, 高		73.7	5.0	70
	(2)	① B国で暮らす人々の伝統的な服装を1~4の中から一つ選ぶ。	1	3, 4		83.2	3.5	75
		② B国で暮らす人々の服装を説明した文として、適切でないものを次の1~4の中から一つ選ぶ。 1 B国の伝統的な服装は、B国で多くの人々が信仰するイスラム教の伝統の影響を受けている。 2 B国の伝統的な服装は、強い日差しのために、白を基調としている。 3 B国の伝統的な服装は、B国の降水量の多い気候でも、快適に過ごす工夫がされている。 4 B国でも、他国と同様、伝統的な服装の人々がいる一方で、現代的な服装をした人々も暮らしている。	3	4		45.8	2.8	60
		③ B国が、世界第2位の鉱物資源の生産割合であることを示す資料を読み取り、この鉱物資源名を次の1~4の中から一つ選ぶ。	2	3		55.6	2.8	70
	(3)	① 表の品目のうち、「米」にあたるものを、表の品目らんの1~4の中から一つ選ぶ。	4	1, 2, 3		34.2	4.6	60
		② 地図1のX, Yで示された地域と、その地域の主食となる農作物の組み合わせとして正しいものを、次の1~4の中から一つ選ぶ。 1 X:小麦 Y:米 2 X:小麦 Y:いも類 3 X:いも類 Y:米 4 X:米 Y:小麦	1	3, 4		59.7	3.6	65
	(4)	地図1のA, B, Cの国名の組み合わせとして、正しいものを次の1~4の中から一つ選ぶ。 1 A:アメリカ合衆国 B:オーストラリア C:サウジアラビア 2 A:エチオピア B:サウジアラビア C:オーストラリア 3 A:エチオピア B:サウジアラビア C:アメリカ合衆国 4 A:オーストラリア B:エチオピア C:アメリカ合衆国	3	2, 3		81.7	4.3	75

(単位: %)

世界の国々の調査

問題 3 (2) ② ※資料省略

次の1～4の文は、けんたさんがB国で暮らす人々の服装を説明したものです。B国で暮らす人々の服装を説明した文として、適切でないものを次の1～4の中から一つ選んで、その番号を答えなさい。

- 1 B国の伝統的な服装は、B国で多くの人々が信仰するイスラム教の伝統の影響を受けている。
- 2 B国の伝統的な服装は、強い日差しのために、白を基調としている。
- 3 B国の伝統的な服装は、B国の降水量の多い気候でも、快適に過ごす工夫がされている。
- 4 B国でも、他国と同様、伝統的な服装の人々がいる一方で、現代的な服装をした人々も暮らしている。

分析 正答率は45.8%であり、選択肢1～4に解答が分かれている。このことから主な宗教の分布、世界の気候帯の特色、世界各地の生活の様子と変容についての理解が不足していると考えられる。また、理解はしていても、それぞれの要素が結びついていないと考えられる。

問題 3 (3) ① ※資料省略

次の表は、世界の主な農作物のうち、「米」、「小麦」、「とうもろこし」、「ばれいしょ」の生産国上位1～5位をまとめたものです。表のC国は、地図1にCで示した国です。この表の品目のうち、「米」にあたるものを、表の品目らんの1～4の中から一つ選んで、その番号を答えなさい。

世界の主な農作物の生産国（2009年）

品目 順位	1	2	3	4
1位	中国	C国	中国	中国
2位	インド	中国	インド	インド
3位	ロシア	ブラジル	ロシア	インドネシア
4位	ウクライナ	メキシコ	C国	バングラデシュ
5位	C国	インドネシア	フランス	ベトナム

（世界国勢図会より作成）

分析 正答率は34.2%であり、選択肢1～4に解答が分かれている。米の生産国として中国・インドが入ることは理解しているが、インドネシア・バングラデシュ・ベトナムなどアジアの国々が上位に入ることを理解していない。またC国に当たるアメリカの大規模な農業のイメージが強く、アメリカが上位に入るとした生徒が多かったと考えられる。基本的な農業の特色を理解していないと言える。

指導のポイント

- 1 **雨温図や民族に関する資料なども活用して、生活や文化の背景を大観させる。**
世界各地の人々の生活と環境を取り扱う際に、世界各地の人々の生活や文化の背景について自然的条件や社会的条件を考慮し、気候帯の分布図や雨温図、民族に関する様々な統計などの資料も活用して理解させる。
- 2 **主な穀物の産地や鉱物資源の産出地について、位置と統計を結びつけさせる。**
主な穀物や鉱物資源についての統計資料を読み解かせ、その産地や産出地について、地図帳や白地図、資料集、ワークシートなどを活用して着色させ、世界のどのあたりに分布しているのか視覚的にとらえさせる工夫などが考えられる。
- 3 **I C T機器を活用する。**
写真や映像資料、I C T機器を活用するなど、イメージをふくらませるための提示方法の工夫が考えられる。
- 4 **生徒の関心を高め、年間を通して統計資料に慣れ親しませる。**
授業導入時などに生徒の関心のある事柄についての統計資料をクイズにするなどの楽しませる工夫や、統計資料からグラフや主題図を作成させるなど、年間を通して統計資料に慣れ親しませる学習場面の設定が考えられる。

(3) 「歴史の流れ」

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の 正答率	市の 正答率	市の 無解答率	設定 通過率
4	(1)	略年表のAの時代にもっとも関係の深い写真を，1～4の中から一つ選ぶ。	1	2		81.3	1.4	60
	(2)	「中世」にあたる時期を，略年表のA～Eの中から一つ選ぶ。	エ	ウ		30.6	3.4	70
	(3)	710年は何世紀かを答える。	8	7		45.5	8.7	65
	(4)	略年表の「政治上で重要な人物」の項目C，D，Eの時期に活躍した人物の組合せとして正しいものを，次の1～4の中から一つ選ぶ。 1 C：北条時宗 D：源 頼朝 E：足利義満 2 C：北条時宗 D：足利義満 E：源 頼朝 3 C：藤原道長 D：足利義満 E：源 頼朝 4 C：藤原道長 D：源 頼朝 E：足利義満	4	3		65.0	3.6	65

(単位：%)

歴史の流れ

問題 4 (3)

略年表のBにあたる、710年は何世紀か答えなさい。

<略年表> ← ア → ← イ → ← ウ → ← エ →

時 代	<small>じょうもん</small> 縄文 A	<small>やよい</small> 弥生	<small>こふん</small> 古墳	<small>あすか</small> 飛鳥 B	<small>なら</small> 奈良	<small>へいあん</small> 平安	<small>かまくら</small> 鎌倉	<small>むらまち</small> 室町
政治上で重要な人物	卑弥呼			聖徳太子	聖武天皇	C	D	E

分析 昨年度と同一問題であり、昨年度の正答率は 44.3%であり、本年度の正答率は 45.5%で、無解答率も約 8%と昨年度と変化はない。誤答例も昨年度と変わらず、7世紀と答える生徒が多くいた。このことから、昨年度と同様、西暦と世紀の関係についての理解が不足している。

指導のポイント

1 歴史学習の導入において、年代の表し方などの基本的な内容を理解させる。

学習指導要領に示される歴史的分野の内容 (1) 歴史のとらえ方「ア 我が国の歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりするなどの活動」では、西暦と世紀の関係を十分時間をとって説明し、理解させる。例えば、年表を使い西暦と世紀の関係を理解させたり、ゲーム的要素を入れたりしながら繰り返し学習させ、基本的な内容を理解させる。

2 歴史学習の導入以外の単元においても、基本的な内容の定着を図る。

西暦と世紀の関係は、繰り返しで身に付くトレーニングの要素がある。例えば、授業ごとに板書で「今日学習する年」を書いたり、西暦や世紀の言葉が出てくるときに発問の工夫等で確認をさせたりする。また、「西暦・世紀小テスト」や「西暦・世紀検定」などバリエーション豊かに、西暦と世紀の関係を継続して指導していけば理解させることができる。

歴史学習の導入で習得させたい基本的な内容

<年代の表し方>

- ・西暦 (紀元前・紀元後) ・世紀 (紀元前・紀元後) ・日本の年号 (元号)

<時代区分の方法>

- ・社会のしくみの特徴による時代区分の呼び方 「古代」「中世」「近世」「近代」「現代」
- ・政治の中心等に着目した時代の呼び方とそれに関連する呼び方
 - 政治の中心…「平安時代」「鎌倉時代」「江戸時代」など
 - 特色ある文化…「縄文時代」「弥生時代」「古墳時代」など

<年表の読み方、まとめ方>

(4) 「古代までの日本」

大問	小問	問題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
5	(1)	<p>猿人や原人がつくることを覚えた道具について説明している文を、次の1～4の中から一つ選ぶ。</p> <p>1 土器が発明され、食物を煮ることができるようになった。</p> <p>2 石を打ち欠いて、すどい刃を持つ打製石器をつくることを覚え、これを使って動物をとらえたり、猛獣から身を守ることができるようになった。</p> <p>3 木を切ったり、加工しやすいように表面をみがいた磨製石器がつくられるようになった。</p> <p>4 前方後円墳をはじめとする大きな墓(古墳)がつくられるようになった。</p>	2	1, 3		86.5	3.3	65
	(2)	<p>カードBの頃の中国の様子について、中国文明が発達したことともっとも関係の深い川の名称を答える。</p>	黄河	ナイル川		55.1	17.9	65
	(3)	<p>カードCの頃の日本の様子として正しいものを、次の1～4から一つ選ぶ。</p> <p>1 律令などの法律がつけられるようになった。</p> <p>2 天智天皇のあと継をめぐる壬申の乱がおきた。</p> <p>3 大王は、九州から東北地方までの各地の豪族を従えた。</p> <p>4 多くの小国が争う中、30余りの国を従えた邪馬台国が現れた。</p>	4	3		82.2	4.2	80
	(4)	<p>カードDの[]にあてはまる、聖武天皇が大仏をつくらせた理由を、次の二つの語句を必ず用いて答える。</p> <p><語句> 「仏教」 「国家」</p>	略	略		49.3	21.2	60
	(5)	<p>「古今和歌集」、「枕草子」などに用いられた、日本独自の文字を答える。</p>	かな	ひらがな		70.4	12.7	75

(単位：%)

古代までの日本

問題 5 (4)

カードDの にあてはまる、聖武天皇が大仏をつくらせた理由を、次の二つの語句を必ず用いて答えなさい。

<語句> 「仏教」 「国家」

カードD 奈良の大仏

この大仏は、天平文化を代表するものです。
大仏をつくるように命じた聖武天皇は、
しょうむてんのう



分析 昨年度と同一問題で、昨年度の正答率は49.5%であり、本年度の正答率は49.3%であった。しかし、無解答率は昨年度が18.3%であったのが、本年度は21.2%と上昇している。これは、本年度の学習状況調査中で2番目に高い無解答率である。使用する語句を用意することで、比較的表現しやすくなっていると考えられる。にもかかわらず、無解答率が高いということは、それだけ文章を書くことに対する苦手意識があると考えられる。また、誤答例として、「国家に仏教を広めるため」「仏教中心の国家をつくらうとした」などが多かった。

指導のポイント

1 書くことへの苦手意識を克服させる。

無解答率は、昨年度よりさらに上昇し、文章で表現することに対して極端な苦手意識を感じている生徒が多いことが分かる。その苦手意識を克服するために、授業中から文章で書くことに慣れさせ、表現力を身に付けさせる必要がある。指導の工夫として、学習内容にかかわる社会的事象の原因や理由を短い文章で繰り返し書かせ、書くことへの苦手意識を克服させる。また、授業中に生徒自身が書いた文章をそのままにするのではなく、黒板に書かせたりする方法もある。生徒に黒板に書かせることにより、文章表現の方法を学んだり、表現方法を生徒同士で共有させたりする効果もある。

2 当時の社会背景をしっかり理解させる。

当時の仏教の特徴は、王権の安泰と国家の平安を護る鎮護国家のための仏教という点にある。この点を理解させ、ただ、語句を並べて「国家に仏教を広める」という短絡的な考え方に陥らないように指導する必要がある。

文章で表現することへの苦手意識を克服させる指導の工夫

- ・社会的事象の原因や理由を、短い文章で繰り返し書かせる。
- ・付箋紙や小さなカードを用いて、グループ内で文章に書くための情報を共有化できるようにする。
- ・長い文章にまとめる際などは、ブレインストーミング及びKJ法を用いるなどして、生徒が長い文章を書く際のプロセスを習得できるようにする。
- ・生徒が書いた文章を黒板に書かせるなどして、生徒どうしが評価し合う場面を設定し、良い文章を生徒が参考にできるようにする。

(5) 「中世の日本」

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の 正答率	市の 正答率	市の 無解答率	設定 通過率
6	(1)	<p>年表中 X の時期の日本の様子として、適切でないものを、次の 1～4 の中から一つ選ぶ。</p> <p>1 御成敗式目ができ、裁判の基準が御家人たちに示された。</p> <p>2 6歳以上のすべての人々に口分田が与えられ、租・調・庸などの税を負担していた。</p> <p>3 草や木の灰が肥料として使われ、米の裏作に麦をつくる二毛作が広まった。</p> <p>4 浄土真宗や日蓮宗などの新しい仏教の教えが民衆の間に広まっていた。</p>	2	3		40.0	2.1	60
	(2)	<p>「鎌倉」の位置を、地図の 1～4 の中から一つ選ぶ。</p>	4	3		59.1	2.4	75
	(3)	<p>生活が苦しくなった御家人を救うために幕府が出した法令の一部を読んで、この法令が出された時期として正しいものを、年表中の ア～エ の中から一つ選ぶ。</p>	ウ	エ		54.4	3.3	60
	(4)	<p>中世の文化をまとめたレポートを、1～4 の中から一つ選ぶ。</p>	4	3		38.4	4.0	65

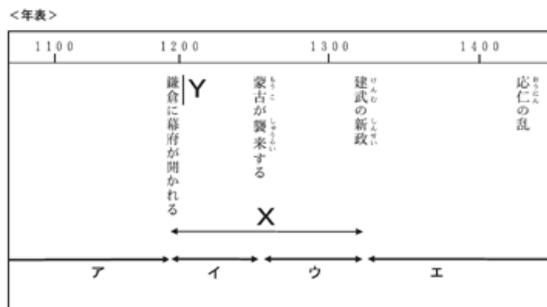
(単位：%)

中世の日本

問題 6 (1)

年表中Xの時期の日本の様子として、適切でないものを、次の1～4の中から一つ選んで、その番号を答えなさい。

- 1 御成敗式目ができ、裁判の基準が御家人たちに示された。
- 2 6歳以上のすべての人々に口分田が与えられ、租・調・庸などの税を負担していた。
- 3 草や木の灰が肥料として使われ、米の裏作に麦をつくる二毛作が広まった。
- 4 浄土真宗や日蓮宗などの新しい仏教の教えが民衆の間に広まっていった。



分析 本年度の正答率は40.0%であり、低い数字である。その原因として、各時代の人々の生活や宗教、文化などの理解が不足していることが考えられる。生活や文化史に興味をもたせる工夫が必要である。

問題 6 (4)

あやこさんのクラスでは、班ごとにいろいろな時代の文化の特色や現在まで伝わる文化遺産を調べ、それぞれ1～4のレポートにまとめました。このうち、中世の文化をまとめたレポートを、次の1～4の中から一つ選んで、その番号を答えなさい。

※選択肢省略

分析 この問題は、中世という「社会の仕組みの特徴によって時代を分ける時代区分」を理解しているかがポイントとなる。本年度、この時代区分にかかわる問題は4(2) (正答率30.6%)、6(4) (同 38.4%) の2題出題されているが、ともに正答率が低い。生徒は、このような時代区分に関しての理解が低いことが分かる。

指導のポイント

1 大づかみに時代の特徴を理解させる。

指導の工夫として、小学校での学習内容を生かし、各時代の学習の導入時に生徒がもっている時代をイメージさせて絵を書いたり、文章で表現したりさせる。そして、前の時代との違いを予想させたりして、前の時代と比較させ、これから学習する時代の特徴を分かりやすく感じさせる必要がある。

2 各時代の学習のまとめとして、特色をとらえさせる。

学習指導要領の歴史的分野の内容(1) 歴史のとらえ方「ウ 学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動」が示され、各時代のまとめとして実施することとなっている。そのねらいは、各時代の特色をとらえさせることである。指導の工夫として、前の時代と比較して理解させる方法がある。例えば、各時代の学習が終わるごとにまとめた資料や文章などから、政治・産業・社会の様子・文化の特色など、学習した内容の比較や関連付けて違いを見付けさせる。そこからこのような特色があるのが〇〇時代というように指導する方法がある。

3 各時代の特色を自分の言葉で表現できるようにする。

時代を大観し表現する活動は、各時代の特色を大きくとらえ、言葉や図などで表したり、互いに意見交換する活動である。例えば、思考力・判断力・表現力等を身に付けさせることを念頭に、各時代の学習が終わるごとに100字以内にまとめさせる。また、導入における予想をもとに前の時代との違いを図や年表などを用いて、比較させたりするなど、継続的に時代ごとにまとめさせる。

(6)「歴史のテーマ」

大問	小問	問題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
7	(1)	A～Dのそれぞれ資料が示す時代を古い順に並べ替える。	B→C→ D→A	B→C→ A→D		45.0	3.1	60
	(2)	なぜ勘合符が活用されたのかを説明するため、「倭寇」という語句を用いて、()に書き足し、文を完成させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">正式な貿易船と、 ()</div>	略	略		47.8	28.4	65
	(3)	Aの資料の頃、沖縄島が尚氏により統一された。その国名を答える。	琉球王国	中国		41.1	22.4	65
	(4)	日本と唐との関係を表わした文章として、適切でないものを次の1～4から一つ選ぶ。 1 最澄や空海が帰国し、日本に天台宗や真言宗を広めた。 2 進んだ文化を取り入れるため、遣唐使が派遣された。 3 平清盛は兵庫(今の神戸市)の港を整備して、貿易をおこなった。 4 シルクロードを通り唐に伝わった西アジアの文物も、日本にもたらされた。	3	4		42.6	2.6	70
	(5)	幕府の御家人がモンゴル(元)軍の戦士と戦っている様子が描かれているDの資料の出来事よりもあとに起こった出来事を、次の1～4の中から一つ選ぶ。 1 源頼朝が征夷大將軍に任命され、政治制度を整えた。 2 後醍醐天皇が朝廷の実権を取り戻そうとし、楠木正成らとともに倒幕をはかった。 3 後鳥羽上皇が朝廷の勢力の回復をはかって、承久の乱をおこした。 4 幕府は、京都に朝廷を監視する六波羅探題を置いた。	2	3		42.1	2.7	70

(単位：%)

歴史のテーマ

問題 7 (1)

A～Dのそれぞれの資料が示す時代を古い順に並べ替え、記号で答えなさい。

※資料省略

分析 本年度の正答率は45.0%であった。この問いは、資料がもつ歴史的な価値を理解しているかどうかのポイントになる。学習指導要領歴史的分野の目標(2)にも書かれているが、歴史学習の指導において、国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を理解させるのは重要なことである。この点を意識した指導をする必要がある。

指導のポイント

1 各時代の特色を表す文化遺産や歴史的に価値のある資料を効果的な方法で提示する。

資料を提示する指導の工夫として、資料の見せ方の工夫がある。資料集や教科書にも多くの資料が載っているが、ICT機器を使う方法がある。例えば、大型テレビを使い、パワーポイントで作った資料を見せたり、動画コンテンツを見せたりすることもできる。また、OHC(オーバーヘッドカメラ)を使って生徒が描いた資料を提示して、表現を共有することもできる。資料の提示の方法を工夫することにより、資料の価値をしっかりと理解させ、さらに歴史に興味をもち「歴史って面白い」と思わせることにもつながる。その為に、ICT機器を使うことは非常に有効である。

授業におけるICT機器の使用による指導の工夫

<大型テレビを使用する場合>

- ・デジタル掛図、デジタル教科書を表示する。
- ・パワーポイントで資料を作成し、表示する。
- ・インターネット経由で必要な資料を読み込み、表示する。
- ・DVD、ビデオなどや動画コンテンツから映像を見せる。
- ・OHC(オーバーヘッドカメラ)を使用し、実物資料や生徒の作品などを拡大して表示する。